

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 28 年 7 月 21 日 (木) 15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 須藤 健一 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 池谷 和信 (議長) —

3. 特別展「見世物大博覧会」

[詳しくはこちら](#)

日本では、細工物・軽業・曲芸・動物見世物といった様々なジャンルの見世物の興行が都市の盛り場や社寺の祭を中心に盛行し、人々を魅了しました。

本展では、こうした江戸から明治・大正・昭和を経て現代に至る多種多様な見世物の歴史と実態を、絵看板、錦絵、一式飾りや生人形などさまざまな資料をとおして紹介します。

会 期： 9 月 8 日 (木) ~ 11 月 29 日 (火)

会 場： 国立民族学博物館 特別展示館

観覧料： 一般 830 円 (560 円)

高校・大学生 450 円 (250 円)

小・中学生 250 円 (130 円)

※ () は 20 名以上の団体料金

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます。



《絵看板》軽業・足芸一座 (国立民族学博物館蔵)

— 池谷 和信 (議長) —

4. 企画展「順益台湾原住民博物館所蔵・学生創作ポスター展 台湾原住民族をめぐるイメージ」

[詳しくはこちら](#)

当館と学術交流協定を締結している台湾の順益台湾原住民博物館が2006年より隔年で主催、実施している学生ポスターコンテストで入選を果たした作品を中心に紹介します。ポスターコンテストの主題となってきたのが、台湾の先住民族である台湾原住民族の文化や歴史です。

情報産業のめざましい発展を遂げた台湾では、若い世代がデジタルコンテンツの制作に取り組み、豊かな構想力や創造力を発揮しています。本展では、そうした学生たちがとらえた原住民族のイメージが表現されたポスターをご覧いただくとともに、イメージとむすびつく原住民族の物質文化を紹介します。

会 期： 8 月 4 日 (木) ~ 10 月 4 日 (火)

会 場： 国立民族学博物館 企画展示場

観覧料： 一般 420 円 (350 円)

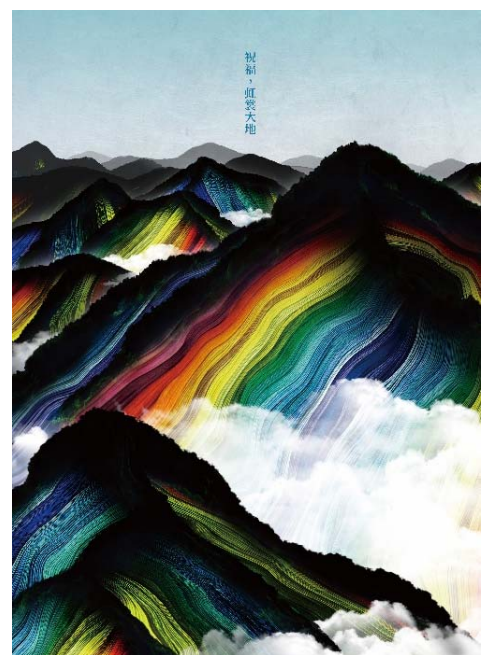
高校・大学生 250 円 (200 円)

小・中学生 110 円 (90 円)

※ () は 20 名以上の団体料金

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます。



林慧茹「祝福、虹の装いの大地」

— 池谷 和信 (議長) —

5. みんなくワールドシネマ

今年度テーマ「映像に描かれる〈出会いと創造〉」

詳しくはこちら

平成28年度は、テーマを「出会いと創造」とし、異文化やさまざまなサブカルチャーとの出会いとそこから生じる葛藤、交渉、およびそれらの結果としての創造性の発現が描かれた劇映画3作品を上映します。上映会では、専門家による解説を提供し、参加者との質疑応答もおこないます。

文化的に異質な他者との遭遇を、潜在的な脅威として否定的にとらえるのではなく、新たな文化の創造の機会として肯定的にとらえる「共創」の可能性を考える契機とします。

日時：第1回 9月22日(木・祝)「禁じられた歌声」
(予定) 第2回 12月4日(日) 「パレードへようこそ」
第3回 2月11日(土・祝)「幸せのありがたみ」
場所：国立民族学博物館 講堂
時間：13:30～16:30(13:00開場)



— 池谷 和信(議長) —

6. みんなく秋の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス

詳しくはこちら

学校団体の教員向けに遠足や校外学習など、博物館見学の準備や事前・事後の学習に役立つツールをご紹介します。

さまざまなご相談もお受けいたします。

日時：8月23日(火) / 8月25日(木)
14:00～16:30(受付は13:30～16:00)
場所：国立民族学博物館 第5セミナー室

みんなく 秋の遠足・校外学習
事前見学&ガイダンス

開催日 2016年 8月23日(火)/25日(木)
14:00～16:30
(受付は13:30～16:00)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(2階)

遠足で世界のくらしを体感しよう!

遠足や校外学習など、博物館見学の準備や事前・事後の学習に役立つツールをご紹介します。
見学に関するさまざまなご相談もお受けいたします。
この機会にぜひ、みんなくへお越しください。

ガイダンスの概要

- みんなくへの遠足・校外学習に関する質問、ご相談の受け付け
- 団体予約受付 ●施設及び新しくなった展示場のご案内・ご説明
- 授業等で活用できるワークシートや学習キットのご紹介

本館展示を自由にご覧いただけます。
【ガイダンス参加者のみ】
内容の詳細、参加申込方法は裏面に詳しく載っています。

— 包国 征治(企画課 課長) —

7. 身装画像データベース <近代日本の身装文化> を公開

詳しくはこちら

新たに公開した身装画像データベース <近代日本の身装文化>をご紹介します。

和装から現在の洋装生活に移行するダイナミックな期間である近代を対象として、当時の文化変容の様子を新聞小説挿絵、写真、図書中の図版、ポスターなどで構成しました。とくに新聞小説挿絵は、写真には収められていないような身装（下着姿や寝間着姿）や、各階層の日常生活の情景が生き生きと活写され、その信憑性は高く、当時の様子を知る恰好の画像情報です。明治維新以降、第二次世界大戦の終わる1945年までの日本の様子を、衣生活を通して楽しんでいただけます。

【参考】近代日本の身装文化データベース

<http://shinsou.minpaku.ac.jp/>



— 丸川 雄三（先端人類科学研究部 准教授） —

8. 第10回文化財保存修復学会業績賞受賞について

詳しくはこちら

文化資源研究センター准教授 日高真吾が、文化財保存および修復の分野において顕著な業績を残したとして、第10回文化財保存修復学会業績賞を受賞しました。

受賞内容と、最新の研究成果について、ご紹介します。



— 日高 真吾（文化資源研究センター 准教授） —

9. 研究こぼれ話

オアシス都市の暮らしの「今」と「昔」

考古学の発掘調査では、1000年以上前の遺跡から、形が現代とほとんど変わらないような遺物が見つかることがあります。今回紹介するタンディル（かまど）がそのひとつです。現在使われている「かまど」と比較しながら、都市の暮らしの今と昔を探ってみたいと思います。



ウズベキスタン・ダブシア遺跡の発掘調査で見つかった「タンディル（かまど）」

— 寺村 裕史（文化資源研究センター ・助教） —

10. 新任紹介

英マンチェスター大学人文学部・講師（現代イスラーム）を経て平成28年現職。専門は中東・イスラーム人類学。エジプトの空手家コミュニティを事例とした都市中流層の社会階層観やモダニティに関する研究課題を遂行中。



— 相島 葉月（先端人類科学研究部・准教授） —

※その他の配布資料

外来研究員受入一覧(資料9)、外国人研究員新規受入一覧(資料10)



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話 :06-6878-8560(直通) FAX:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp